木の家ネット 第14回総会
岐阜·加子母大会報告

全国の会員の発表に聞き入る面々

1 2

Like 0　ポスト

2014年10月18日
第14期 職人がつくる木の家ネット総会 初日

第14期 職人がつくる木の家ネット総会は、2014年10月18日-19日、岐阜県の下呂温泉に宿泊、二日目には中津川市加子母の明治座や神宮備林に見学ツアーという充実した内容で行われました。迎える現地幹事は、岐阜の水野友洋さん、各務博紀さん、愛知の丹羽明人さん、大江忍さん、静岡の寺川千佳子さん。直前に近くの御嶽山の噴火があり、空にたなびく煙も若干見えていましたが、無事に開催できてよかったです。

幹事としてがんばってくださった面々が大江代表（中央）から紹介される 左／水野さん　中左／丹羽さん　左／各務さん

南飛騨特有の益田造り
銀花荘見学

銀花荘外観

自由参加での昼食をレストラン「バーデンバーデン」でとった後、宿泊先である下呂温泉の「小川屋」に集合、３班に分かれて「銀花荘」見学に出発しました。

銀花荘は、明治41年に建てられた木造２階建ての岐阜県有形文化財の建物です。通常は年に２回だけ一般公開をしているのですが、今回は木の家ネットの活動に共感いただき、快く見学を受け入れて頂きました。

この南飛騨地域のの伝統的な民家は、「益田造り」と呼ばれ、南北に下る切妻に、緩やかな大屋根と深い軒が特徴です。積雪の多い北飛騨が合掌造りであるのと比べ、対照的な姿です。南飛騨は、東西を山に囲まれ、南北に伸びる谷に位置している為、積雪よりは台風の風が谷の向きと一致した時に起こる「大風」に備えてのつくりだそうです。

重厚な軒の張り出し

当時は「榑（クレ）」と呼ばれる板を葺き、石を置いた屋根だったそうですが、現在は瓦葺きです。６尺程もある深い軒の出が、100年以上もたわまず佇んでいる姿に、当時の職人がいかに木を上手に使われていたかが伝わってきました。

大戸をくぐって中に入ると、ずっしりとした鴨居の座敷に、銀花荘の家主である須賀さんが収集された古民具の数々。古民具にも良い材と昔の職人の技術によって作られたものが多く、このように存在感のあるものは今では真似できないものもあると、須賀さんはお話くださいました。建築と同じように、素材と職人の手仕事から生みだされるモノには、時間が過ぎても人を惹きつける普遍性があるものだと感じました。（文／水野友洋）

集められた民具がぎっしりと並ぶ室内

もりだくさんの内容の総会

銀花荘から戻り、いよいよ、会員が一同に会する総会の時間が、岐阜の岡崎定勝さんの開会宣言とともに始まりました。16時半から19時半という３時間の中で、寺川進先生（浜松医科大学 名誉教授、常葉大学教授）の特別講義「自然界の模様と形」、「石場建て」や「温熱環境」をテーマとした会員発表と、もりだくさんの内容でした。

寺川進先生の特別講義
「自然界の模様と形」

笑顔が素敵な寺川進先生は、会員の寺川千佳子さんご自慢の旦那様。

「自然界の動植物の模様や形を見ていると、特別なデザイナーが一つ一つを丹念に作り上げたのではないかとさえ思えますが、そのすべては、物理的な力が働いて、なるべくしてできた形なのです」と、寺川先生は、映像をまじえてお話くださいました。

動画を再生できません
この動画は再生できません

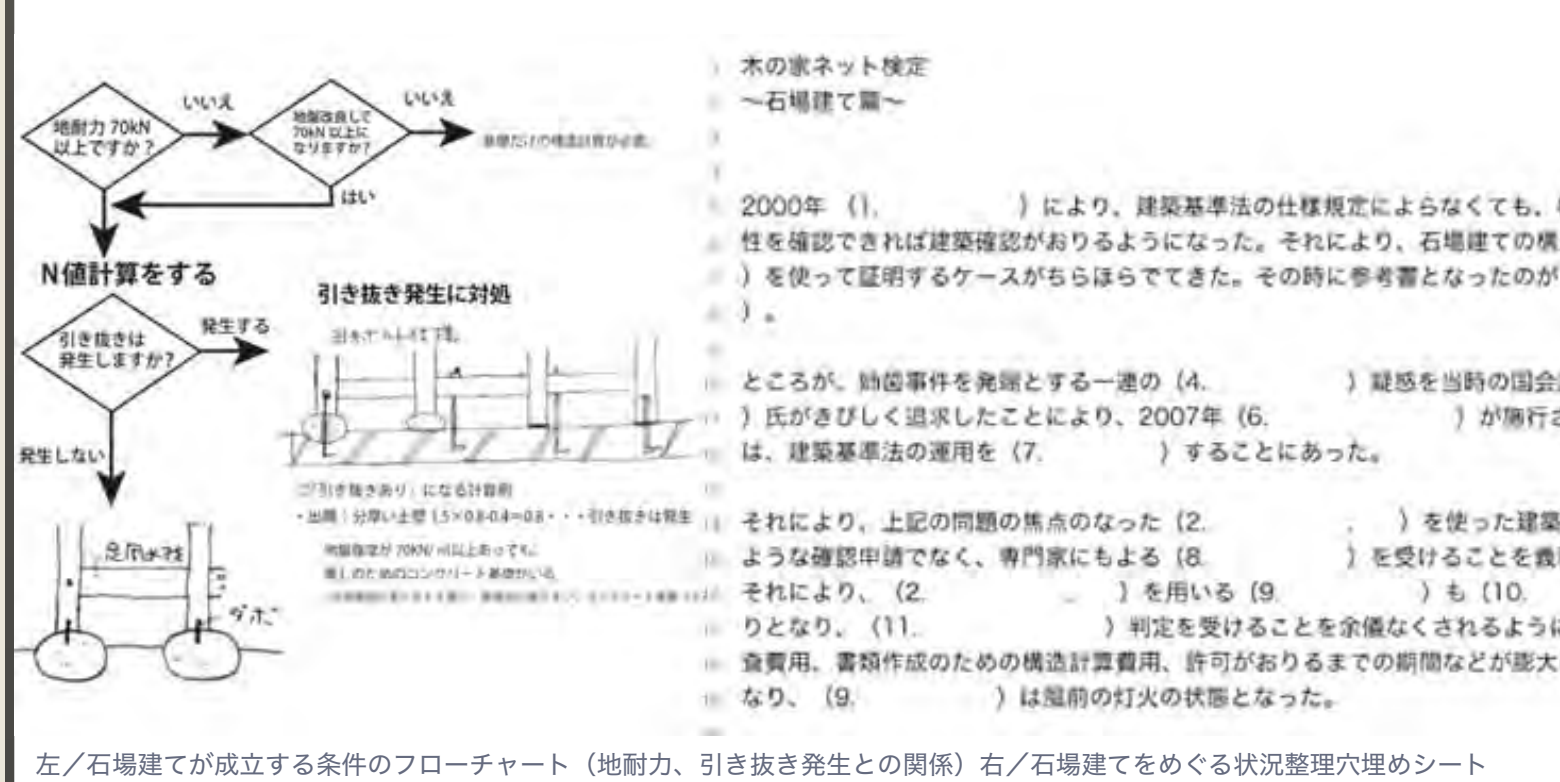
Cosmic Voyage 1996

何億光年という宇宙といった大きなものから分子、原子レベルといった微細なものにわたって、結果の一部が原因に影響を与えるような過程が繰り返され、時がたつと次第に秩序が生まれ、全体と部分が類似するというフラクタルな形が現れる。原因と結果の世代が繰り返されるうちに、あらゆる模様や形が生まれ、精緻に作られたように見える複雑な似た形が自然と出現する。映像を見ながら、そのような自然界の不思議を教えていただきました。

「石場建て」タイム

基礎石の上に直接柱を立てる「石場建て」。お寺をはじめ、昔ながらの建物には、よくあるつくりですが、今の建築基準法では「柱は、基礎コンクリートの上に横に寝かせた土台に刺す」のが決まり。特に２階建ての石場建てとなれば、通常の確認申請ではなく、限界耐力計算を使い、検査機関で「適判」という審査を経て構造安全性を示さなければ建てられない「狭き門」となっています。それゆえ、なかなか手がけるつくり手が少ないのが現状です。

「石場建て」タイムでは、まず、建築基準法の中での石場建ての位置づけを穴埋め問題やフローチャートでおさらいをしました。



木の家ネット検定
〜石場建て篇〜

2000年（1.　　）により、建築基準法の仕様規定によらなくても、構造
性を確認できれば建築確認がおりるようになった。それにより、石場建ての構造安
）を使って証明するケースがちらほらでてきた。その時に参考書となったのが（3.
）。

ところが、姉歯事件を発端とする一連の（4.　　）疑惑を当時の国会議員
）氏がきびしく追求したことにより、2007年（6.　　）が施行された
は、建築基準法の運用を（7.　　）することにあった。

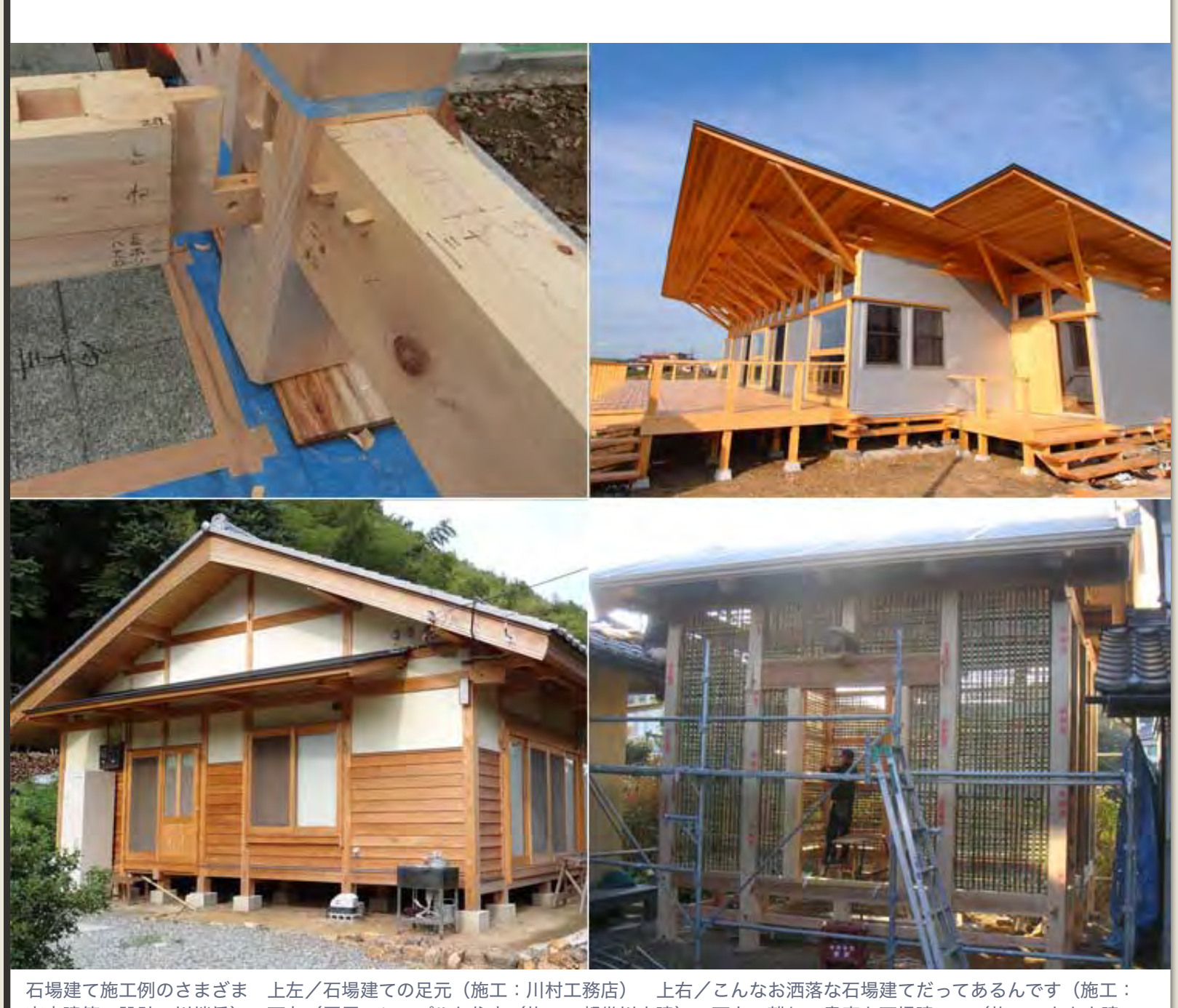
それにより、上記の問題の焦点のなった（2.　　）を使った建築事例
ような確認申請でなく、専門家による（8.　　）を受けることを義務づ
それにより、（2.　　）を用いる（9.　　）も（10.
りとなり、（11.　　）判定を受けることを余儀なくされるようにな
査費用、書類作成のための構造計算費用、許可がおりるまでの期間などが膨大にか
なり、（9.　　）は風前の灯火の状態となった。

左／石場建てが成立する条件のフローチャート（地耐力、引き抜き発生との関係）右／石場建てをめぐる状況整理穴埋めシート

その後、木の家ネットで石場建ての施工実績のある埼玉の綾部孝司さん・高橋俊和さん、三重の池山琢馬さん・伊藤淳さん、滋賀の川村克己さん・宮内寿和さん・川端眞さん、愛知の大江忍さん、京都の金田克彦さん、岡山の和田洋子さん、熊本の古川保さんが、それぞれの事例をひとつずつ紹介しました。２階建ての住まいから、アトリエや書庫など離れとして使う小さなものまで、いろいろな施工例がありました。

石場建ての発表をする 左／川村克己さん「足元まわりの刻みが大変ですけど、やりがいあります」　中／高橋俊和さん「大地に柱をスックと立てよう！」　右／宮内寿和さん「在来工法とはまったく違った力学がはたらいていることを理解してかからんと」

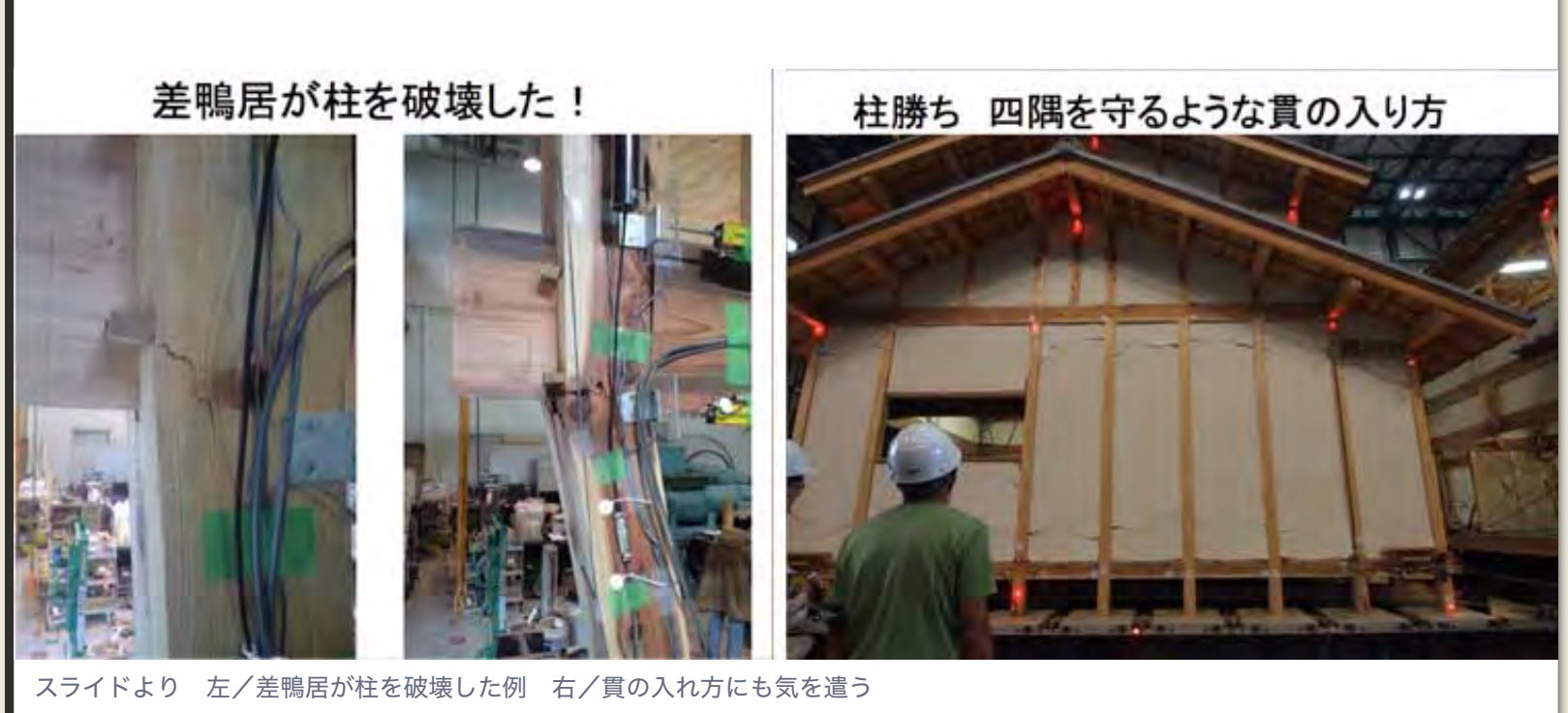
「建物の足元があいていることは、床下の通気につながり腐朽や湿気において有利」「メンテナンスがしやすいことが長寿命につながる」「コンクリート基礎をできれば使いたくない」「大地に柱を屹立させたい」「大工技術が問われる」「ヨイトマケで石を据える地面の地業などを結いでやれる」など、取り組んでいるつくり手のさまざまな想いが伝わる発表でした。



石場建て施工例のさまざま　上左／石場建ての足元（施工：川村工務店）　上右／こんなお洒落な石場建てだってあるんです（施工：宮内建築、設計：川端眞）　下左／平屋のシンプルな住宅（施工：都幾川木建）　下右：離れの書庫を石場建てで（施工：大カネ建築）

最後にEディフェンスでの実大実験に立ち会っての損傷観察をはじめ、解体直前の古い石場建ての家で実施した静的加力試験など、数々の実験を通して「家の壊れ方」を見てきた滋賀の宮内寿和さんが、その経験を裏付けにして編み出したという自分なりの「石場建てのルール」には説得力がありました。

「想定外の大地震で、家が層間変位角度1/10まで傾いた時に生存空間を確保するために『どういう壊れ方をするのがベストなのか』を考えるのが、石場建て。土台敷きとはまったく施工の発想を変えないと、同じように作っていたのでは、できない」という話が印象的でした。



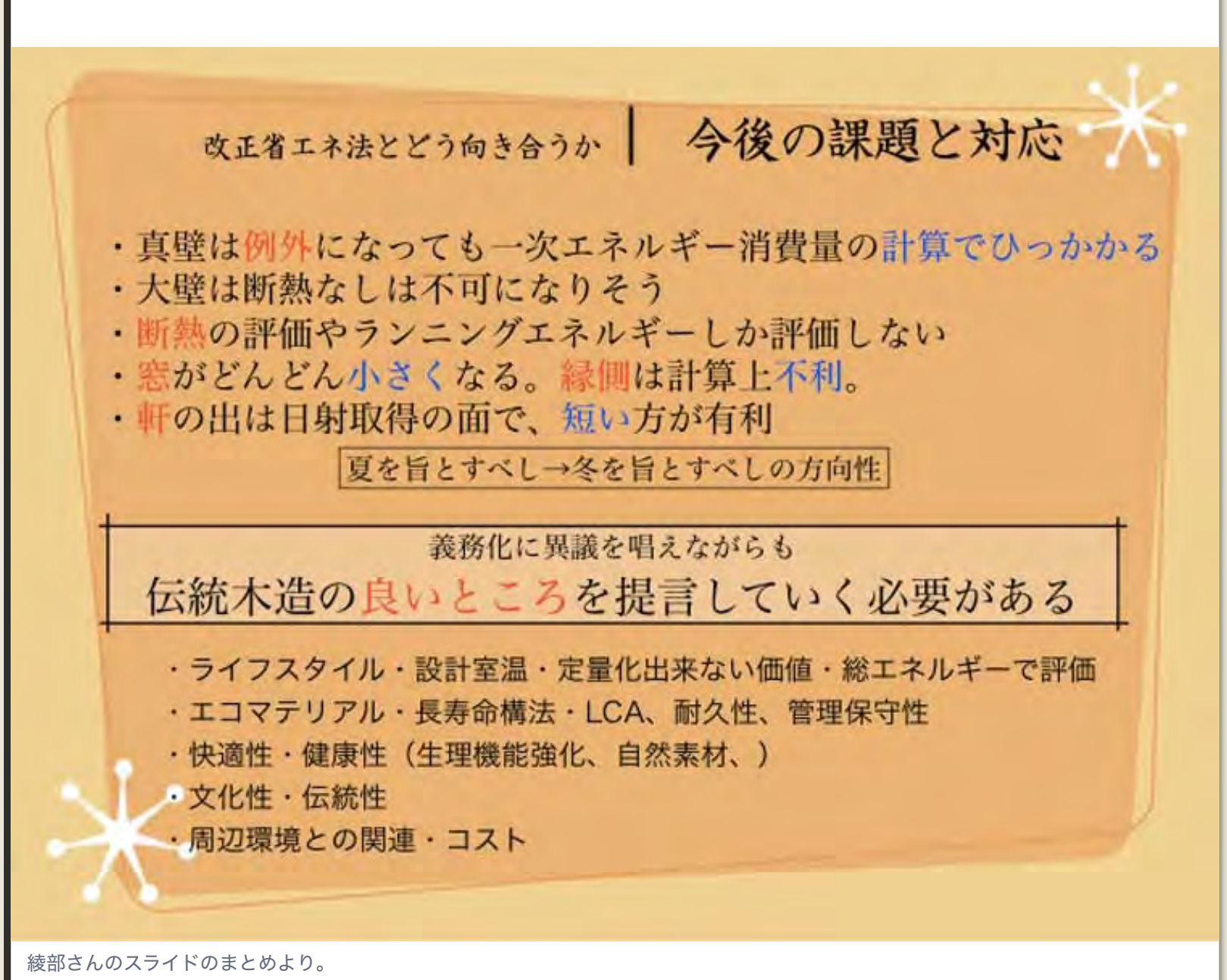
スライドより　左／差鴨居が柱を破壊した例　右／貫の入れ方にも気を遣う

「改正省エネ法」タイム

次に、2020年に義務化となる「省エネ基準」をめぐって、東京の林美樹さんのナビゲートで、木の家の温熱環境調査に携わって来た東京の高橋俊和さん・山田貴宏さん、神奈川の日高保さん、埼玉の綾部孝司さん、熊本の古川保さん、が発表をしてくださいました。

断熱材を入れない真壁づくりの土壁の家。こういう家が作れなくなりませんように・・

まずは、古川さんによる「改正省エネ法で、木と土の家はどうなる？」というポイントを押さえたオリエンテーションがあってから、それぞれの発表に移りました。「室温20度以上をキープしなければならないのは、本当に健康にいいのだろうか（日高）」「実際の生活実態を見るとエネルギー消費量が少ないような事例が、省エネ基準より大きなエネルギーを使うような計算になるのは不可思議（綾部）」「真壁の街並が作れなくならないようであってほしい（高橋）」「木と土壁の家の環境性能は、断熱性能だけでなく、さまざまな環境性能を加算した総合的な評価をしてほしい（山田）」など、さまざまな角度からの論点が見えて、参考になりました。



改正省エネ法とどう向き合うか｜今後の課題と対応

- 真壁は例外になっても一次エネルギー消費量の計算でひっかかる
- 大壁は断熱なしは不可になりそう
- 断熱の評価やランニングエネルギーしか評価しない
- 窓がどんどん小さくなる。緑側は計算上不利。
- 軒の出は日射取得の面で、短い方が有利

夏を旨とすべし→冬を旨とすべしの方向性

義務化に異議を唱えながらも
伝統木造の良いところを提言していく必要がある

- ライフスタイル・設計室温・定量化出来ない価値・総エネルギーで評価
- エコマテリアル・長寿命構法・LCA、耐久性、管理保守性
- 快適性・健康性（生理機能強化、自然素材、）
- 文化性・伝統性
- 周辺環境との関連・コスト

綾部さんのスライドのまとめより。

また、最後に、北海道の西條正幸さんから、改正省エネ法の基準にむしろ近い「夏を旨とすべし」とはいえない厳しい寒さの中での北方型の木の家における温熱環境のつくり方についての発表もありました。北から南まで、気候風土の違う日本であればこそ、同じ考え方や基準でひとくくりにできないということを実感しました。「省エネ」は大切なことですが、その方法については、それぞれの地域の気候風土に見合ったやり方が認められるようであってほしいものです。

お楽しみの宴会と
深夜まで続いた分科会

宴会

内容の濃かった「総会中の総会」の後は、お座敷での宴会が、京都の中川幸嗣さん、大下尚人さん、兵庫の高橋憲人さん、大阪の木又誠治さん、奈良の坂本正孝さん、山梨の鈴木直彦さん、横山潤一さん、三重の丹羽怜之さん、滋賀の竹内直毅さん、神奈川の袋田琢巳さん、広島の野島英史さんと、多くの新会員さんを迎えて、賑やかに行われました。また、高知の沖野さんから「来年は高知へ！」と魅力的なアピールもあり、会場が湧きました。

来年の高知での開催を発表する沖野誠一さん

宴のあとは、毎回恒例の分科会。４つの部屋に分かれて、それぞれのテーマで夜遅くまで語り合いました。（文／持留ヨハナ）

浴衣姿、茶碗酒での分科会

Like 0　ポスト

1 2

宴会時には、新入会の会員の紹介が行われた

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

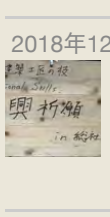
2019年6月15日
やさしくて強い、理想の家を求めて: アイ設計研究室 大前泰秀さん

2019年5月15日
磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん

2019年4月20日
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん

2019年4月10日
本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん

2019年1月5日
新春特集 2018年のベストショット集


2018年12月29日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編

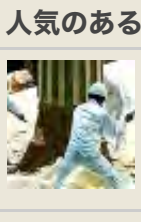
2018年12月17日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編

2018年12月14日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編

2018年9月4日
番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん

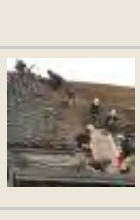
2018年8月15日
鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事


伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
18件のビュー

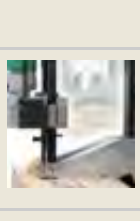
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
18件のビュー

設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
11件のビュー


古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
10件のビュー


込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
9件のビュー

大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」
8件のビュー

大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて
8件のビュー

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー
8件のビュー

この記事のタグ

- 日本の山河を守りたい
- 日本文化と木の家
- 顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

2004年3月25日
製材・鈴木禎一さん(あさひ製材)：山の木と住む人との縁結び

2008年10月25日
緑を絶やさないために

2002年1月25日
Q&A：環境篇

2006年10月25日
その木のふるさとを知る

2010年2月25日
林業が良くなっていくには、何が必要か

関連する記事はこちら

木の家ネット第９期総会・熊本大会の報告

緑を絶やさないために

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る

日本人の暮らしと木

大工・池上算規さん(大工池上)：長崎県産材100%の家ができるまで

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

(C) 職人がつくる木の家ネット /Shokunin ga Tsukuru KINO-IE net, All rights reserved.

木の家ネット 第14回総会
岐阜·加子母大会報告

1 2

Like 0　ポスト

2014年10月19日
第14期 職人がつくる木の家ネット総会 2日目

総会の続き

二日目の朝は、朝食の会場でそのまま総会の続き。前夜の分科会での熱いトークについて、それぞれの部屋ごとの発表があった後、新しく会計を司ることになった佐野喜美子さんの紹介と第13期決算と第14期の予算の発表、木の家ネットの創立当時の経緯について元代表の加藤長光さんと立ち上げ当初の運営委員である渡辺隆さんからのお話などがありました。あわただしくチェックアウトして、車に分乗して、加子母へと向いました。

総会二日目。朝からの総会での、前夜の分科会の報告タイム

今も現役の地歌舞伎の舞台
かしも明治座を見学

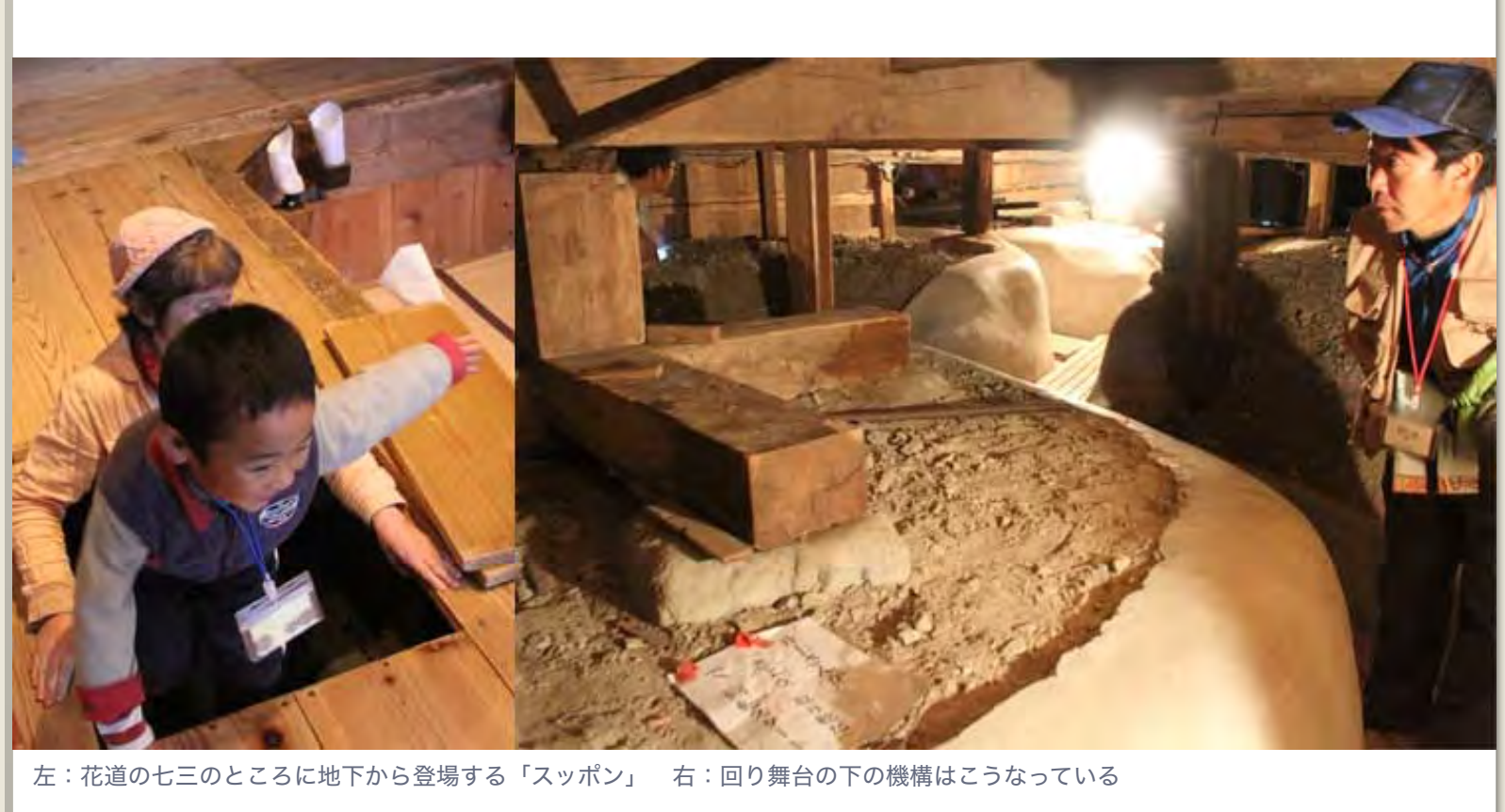
かしも明治座

最初の目的地は岐阜県重要有形民俗文化財の「かしも明治座」。明治27年に建てられ、幾度も改修を重ねた、瓦屋根、白壁総2階建てのこの芝居小屋は、舞台は８間スパンの大空間、木造の回り舞台やスッポンも備えるという本格的なつくり。江戸時代から地芝居が盛んな東濃地域ですが、ここは、昭和48年に発足した加子母歌舞伎保存会により、毎秋、熱の入った地歌舞伎が上演される今も現役の劇場です。時には、結婚式に使うカップルも居るとか。

ちょうど、明治座をなるべく創建当時の姿に戻しつつ耐震改修をする工事が始まる前で、運良く見学がかないました。

引き幕の前でお話してくださる中島さん

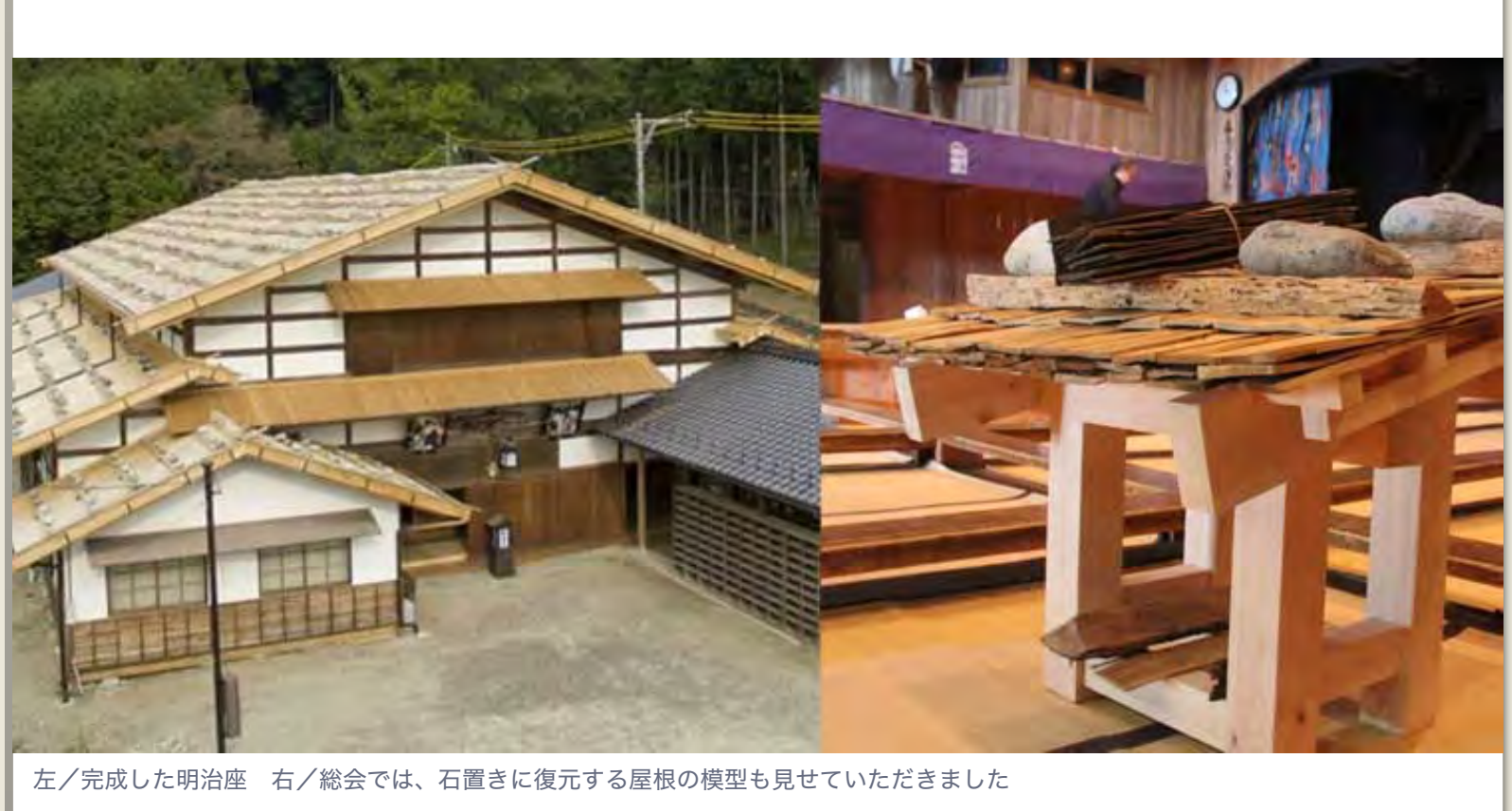
まず、中島工務店の中島さんや役場の内木哲朗さんが、明治座の歴史や、地元の人が育てて来た地歌舞伎について、また、原木生産から住宅づくりまで一貫しての林材建設業を主軸とする加子母の地場産業についてお話くださいました。また、次に、この明治座の耐震改修工事の実施設計に携わっている滋賀の川端眞さんから、限界耐力計算を用いながら、この大スパンの空間をいかに木造だけで成立させるかという苦労話もありました。



左：花道の七三のところに地下から登場する「スッポン」　右：回り舞台の下の機構はこうなっている

女たちがみんなでお金を出し合って贈った引き幕の美しさに驚嘆したり、回り舞台の下に入ってのスッポンから出ての舞台裏を見学したりと、楽しく時間が過ぎました。

なお、この明治座の改修工事は無事終了し、2015年10月にはお披露目のイベントも行われました、屋根がセメント瓦から、元の栗の割板（くれ板）葺きとなり、大分印象が変わりました。



左／完成した明治座　右／総会では、石置きに復元する屋根の模型も見せていただきました

自然林の中に立派な桧が林立する
神宮備林

明治座の後はいよいよ、マイクロバスを３台に分乗して「井出ノ之小路山」に向かいます。ここはかつては江戸城築城の用材を産出した地。今は、伊勢神宮の式年遷宮に木材を供給する、面積730ha 蓄積32万立米の神宮備林となっています。産出する樹種は７割が桧、３割がさわらですが、広葉樹との混淆林となっています。

案内してくださったのは、かつては加子母の「殿様」と呼ばれた、代々尾張藩に仕えた山守の末裔の内木哲朗さんです。2013年に放映されたTBSのドラマ「命」は内木家を舞台にしたドラマでしたが、津川雅彦さんがこの山守の役を演じられました。内木さんは、まず、紙芝居仕立てで、この森の特徴や、いかにこの山を守ってきたを語ってくださいました。

代々守って来た森の歴史を語る内木哲朗さん

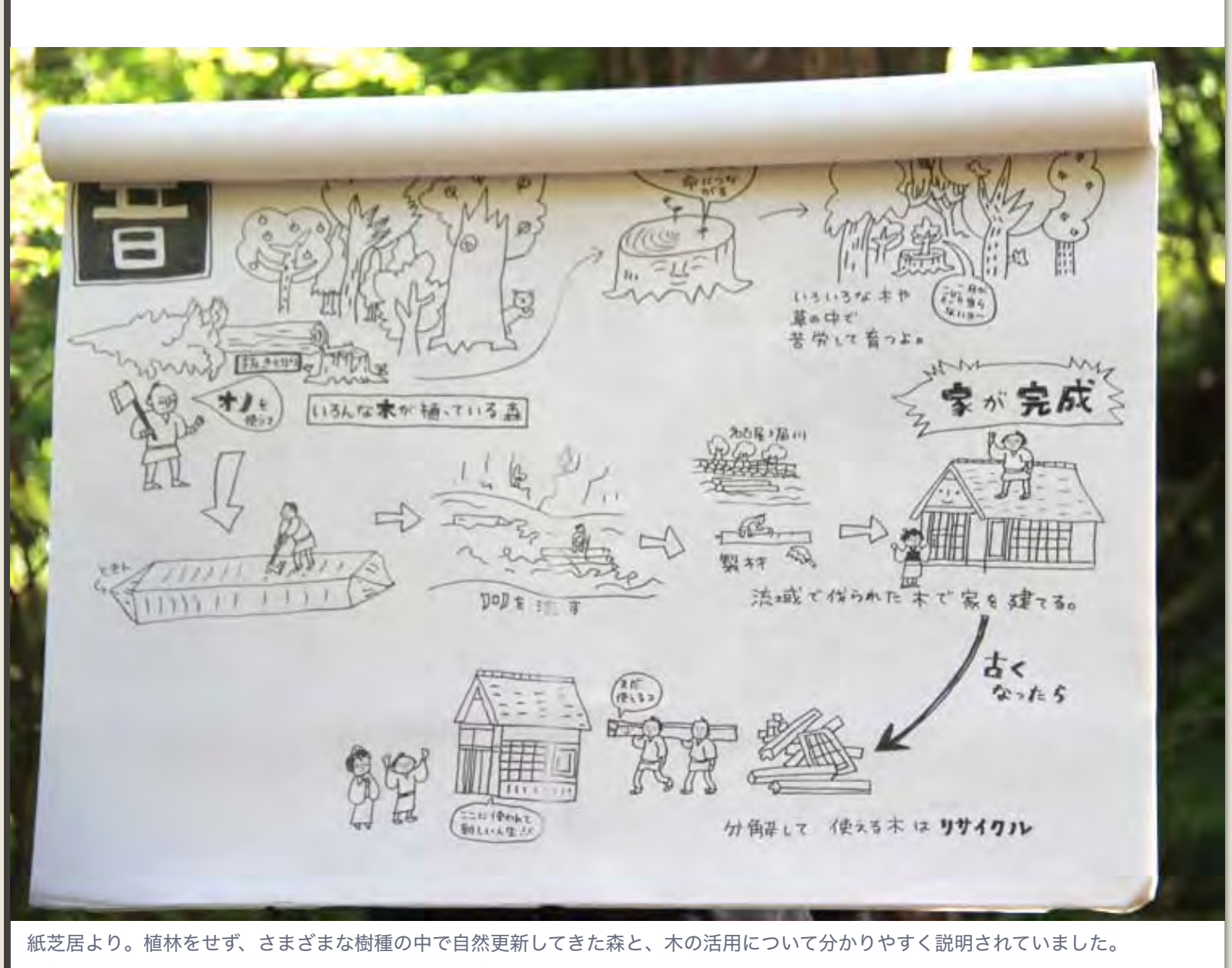
山守とは、藩から山の管理を任された云わば公務員。樹木だけでなく、境界線（幕府と藩、藩と藩）の定期的な点検、鷹狩り用の鷹を献上するための鷹の巣の管理、山火事の消火活動、山の案内、森林警察などが含まれ、山に関係する全ての仕事を任されていました。内木家が管理する山の面積は約3万ha。そのような膨大の仕事をこなす為には、年間260日は山に入り、山小屋などで暮らす日々だったそうです。

この森の何よりの特徴は、植林をしていないということでうす。岩だらけのこの急峻な土地で、実生で芽を出し、長い根っこを深く地中にのばし、ゆっくりと成長する木が生き残った結果として、目の詰んだ、高樹齢の有料な建築材が得られるのだそうです。

実生で大地に深く根を下ろした木には、荒々しい生命力を感じます。

山のどこに、どれくらいの木があるのかという全容を把握し、用材を求められた時に、どこから伐りだせば、森林蓄積を減らすことなくバランスを保てるかを、判断しつつ、需要に応える。それが、自然に育つ樹を見守る山守のもっとも大切な任務です。その中で内木さんの先祖がたどりついたのは「六十六年一巡之理」。

ある区域を、一斉に皆伐するのでなく、７〜８寸程度以上に育った木だけを択伐し、66年後までは、風倒木や疵木を整理するぐらいで、大きな木が伐られて日が射すようになった跡に実生で芽を出した木が育つのを、見守る。広大な森を知り尽くしていなければ、そしてそれを親から子、子から息子へと世代を越えて連綿と伝えていかなければ、できない森づくりです。そのような営みがあってこそ、今のこの豊かな森の姿があるのだなと、気が遠くなるような感動を覚えます。


昔
いろんな木が植っている森
オノを使って
川を流す
製材
家が完成
流域で採られた木で家を建てる。
古くなったら
分解して 使える木はリサイクル

紙芝居より。植林をせず、さまざまな樹種の中で自然更新してきた森と、木の活用について分かりやすく説明されていました。

また、伐った木材を川に流して輸送する絵を見ると、木材一本一本に記号や文字で、生産地、樹種 長さ、幅、厚さ、伐出した人、場所などが記載されていることも教えてくださいました。品質管理もトレーサビリティーも現在以上に進んでいたことが伺えます。

内木さんのお話をかみしめながら「千年杉」をめざして、山へハイキング。実際に歩いてみると、前年の奈良の総会の時に訪れた、人工的に植林してできあがっている吉野美林とは対照的な様相に驚きます。樹齢300年、400年という高樹齢の桧やさわらがそこここにあるのですが、整然と植わっているのではなく、針葉樹も広葉樹もあわせて、多種多様な樹木が混在する森の中に「点在」しています。しかも、自ら実生で生き抜いて来た力強さなのか、うねるようにして地面から立ち上がっているような荒々しさです。

奥へ奥へと歩いていくと、樹齢1000年と言われるヒノキにたどり着きました。ほんとに急な山場に、枝は崖側だけに出して、岩を抱えるようにして、高さ26m、胸鷹直径154cmという立派な杉がまっすぐ立っていました。1000年といえば、尾張藩よりもはるか前の時代です。内木さんの祖先がずっと見守って来た、山の主のような木です。

険しい斜面にスックと立つ千年杉

千年杉から山道をおりると、バスが迎えてくれていて、昼食のお弁当が配られました。メニューは名物の「ホオバ寿司」。大きな朴の葉に包まれた、ごはんと色とりどりの魚、漬け物。香りもよく、美味しかったです。

加子母の名物、朴葉寿司

その後、山道をおりて、平成伊勢神宮の式年遷宮用材となった中で最初に斧を入れた切り株の見学をしました。三方から斧を入れて倒す「三ツ緒伐り」の跡がはっきりとわかりました。（文／持留 ヨハナ）

オプションツアー：
山守り内木家

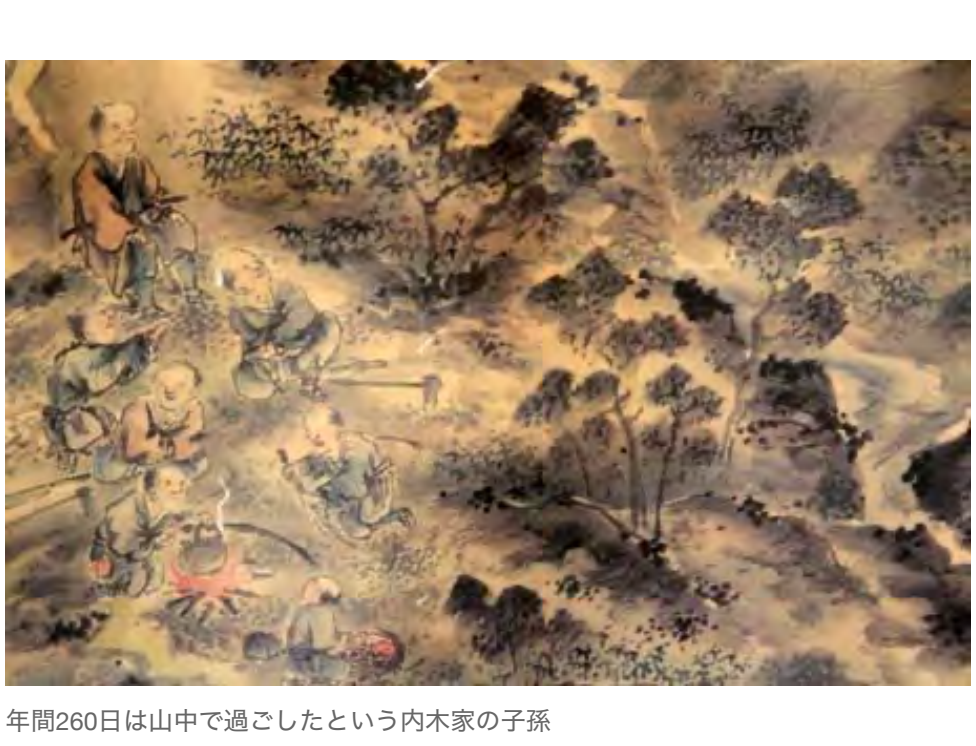
代々山守をつとめてきた内木家

山の見学も終わり、遠方の方が一時解散した後、オプションツアーとして山を案内して下さった山守り内木家の実家見学がありました。映画のロケにも実際使われた場所だそうです。長い間空家になっていたらしいですが、ほぼ昔のままの形で建っていました。

座敷に座り、内木さんから昔の資料の数々を見せていただきました。その中で特に興味を持ったのが、山守が書いた作業日誌でした。文面は昔の文字で読み取る事ができませんでしたが、内木さんによると『山守として一年の大半を深い山奥で過ごしているため、親が倒れても、子供が病気になっても帰る事さえできない過酷な仕事』だったそうです。

内木家では、代々の山守がつけてきた日記を保存している。

一見無造作に置かれている資料や絵でしたが、すべてが貴重な文化財だと思うと手に取るのも怖いくらいでした。座敷に掛けられた掛け軸には内木さんのご先祖様が山の中で休憩している姿が描かれていましたが、ちょっと内木さんに似てたかも・・・。



年間260日は山中で過ごしたという内木家の子孫

オプションツアー：
山守り内木家と加子母大杉

内木邸からみんなを乗せたバスは、山からどんどん離れ平坦地へと進みます。家も建ち並ぶ場所でどこへ行くのか不思議に感じていると、あきらかにそれだと分かる巨木が外に見えてきました。

平坦地に一本だけ立つ、高さ31m、幹回り13m、樹齢1000年を超える加子母大杉は、存在感を放ち、躍動感たっぷりで、力強く立っていました。『これはスゲェ！！』とみなさん感動している様子でした。

地蔵堂に貼ってあった「なめくじ祭り」のポスターにもみなさん喰いついていました。木の家ネット岐阜総会の全日程が終了しました。お疲れさまでした。（文／各務 博紀）

Like 0　ポスト

1 2

内木さんの案内で、加子母の木々を見上げる会員たち

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 - 民家改修と曳家-
2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
2017年9月4日 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
2017年6月30日 気候風土適応住宅のススメ
2017年6月3日 掛川総会３
2017年5月31日 掛川総会２

人気のある記事
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 18件のビュー
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 9件のビュー
大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録 8件のビュー
大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー

この記事のタグ
日本の山河を守りたい
日本文化と木の家
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2006年10月25日 その木のふるさとを知る
2004年3月25日 製材・鈴木禎一さん(あさひ製材)：山の木と住む人との縁結び
2005年1月25日 林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり
2008年10月25日 緑を絶やさないために
2009年4月30日 山里の暮らしがなくなる？

関連する記事はこちら

木の家ネット第９期総会・熊本大会の報告

緑を絶やさないために

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る

日本人の暮らしと木

大工・池上算規さん(大工池上)：長崎県産材100%の家ができるまで

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

(C) 職人がつくる木の家ネット /Shokunin ga Tsukuru KINO-IE net, All rights reserved.